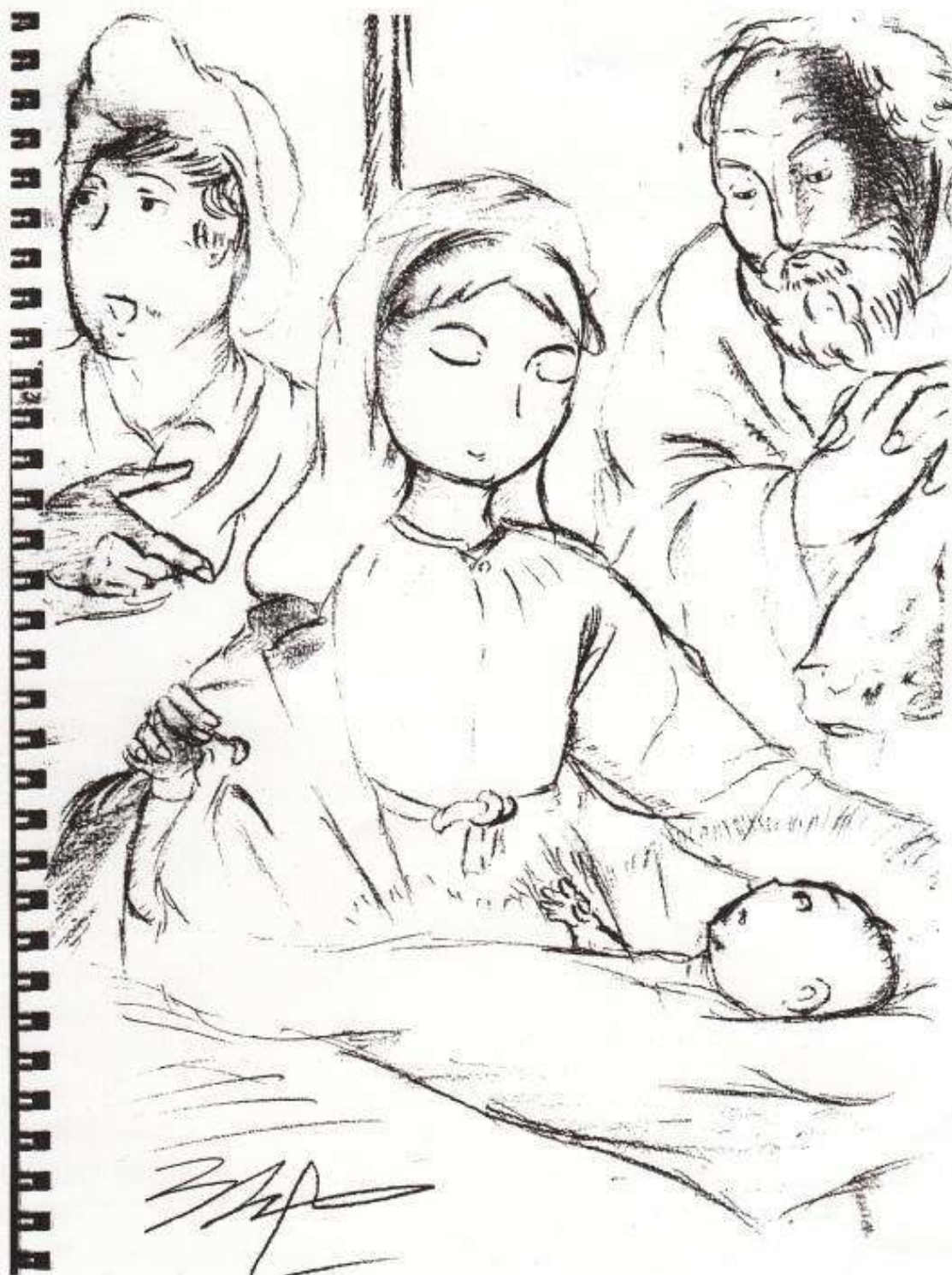


すみよし



2010 年

クリスマス号

第 182 号

聖 句

「いと高きところには栄光、神にあれ、
地には平和、御心に適う人にあれ。」

天使たちが離れて天に去ったとき、羊飼いたちは、
「さあ、ベトレヘムへ行こう。主が知らせてくださった
その出来事をみようではないか」と話し合った。

そして急いで行って、マリアとヨセフ、また飼い葉桶に
寝かせてある乳飲み子を探し当てた。

ルカ福音書 2 章 14 節－16 節



《待降節第一主日前晩の祈り》

教皇様のご意向による、いのちのための前晩の祈りが 11 月 27 日（土）30 名程が集まり行なわれました。聖体の顕示・待降節前晩の祈り・いのちのための嘆願の祈り・ロザリオの祈りが捧げられました。

「いのちのための嘆願の祈り」

主イエス・キリスト、あなたは教会と人類の歴史の中に来られ、わたしたちといつもともにいてくださいます。あなたはご自分の御からだと御血のとうとい秘跡によって、わたしたちを神のいのちにあずかる者とし、永遠のいのちの喜びを前もって味わわせてくださいます。わたしたちはあなたをあがめ、ほめたたえます。

いのちを生み、いのちを愛してくださる主よ、わたしたちのうちにとどまり、わたしたちのうちに生きておられるあなたに心をこめて祈ります。生まれ来るあらゆるいのちを敬う心を、わたしたちのうちに呼び覚ましてください。母の胎内に宿ったいのちが、造り主である神のすばらしいみわざであることを認め、生まれてくるすべての子どもたちを、喜びをもって受け入れることができますように。

すべての家庭を祝福してください。夫婦のきずなが聖なるものとされ、その愛が豊かにはぐくまれますように。

法を定める人々が正しい道を選ぶよう、聖霊の光によって導いてください。人間のいのちが聖なるものであることをすべての人が認め、いのちを敬うことができますように。

科学や医療にたずさわる人々を導いてください。科学や医療の進歩が人々の生活の向上に貢献し、あらゆるいのちを脅かす力が取り去られますように。

国政や経済にたずさわる人々に、愛をはぐくむ心をお与えください。若い家庭が安心して子どもを産み育てるために、十分な環境が整えられ、促進されますように。

子どもを持つことができずに苦しむ夫婦に慰めを与えてください。あなたからあらゆるよいものが与えられますように。

親を亡くした子どもたち、また、親から見捨てられた子どもたちを大切にする心を、すべての人のうちにはぐくんでください。すべての人があなたの温かい愛に触れ、あなたの心からの慰めに満たされますように。

主よ、あなたは信仰に満ちた母マリアの胎に、わたしたち人類をゆだねてくださいました。わたしたちは、いのちを愛し、いのちに仕える力を、唯一の救い主であるあなたからいただけるよう、マリアとともに待ち望みます。父と子と聖霊の交わりのうちに、あなたとともにいつも生きることを待ち望みます。

《目 次》

☆	聖 句		・ ・ ・ ・	2
☆	待降節第 1 主日前晩の祈り		・ ・ ・ ・	3
☆	目 次		・ ・ ・ ・	4
☆	待降節黙想会	昌川 信雄神父（クラレチアン会）	・ ・ ・	5
☆	恵老の日		・ ・ ・ ・	9
☆	セニョール・デ・ロス・ミラグロス		・ ・ ・ ・	1 0
☆	バザー報告	KT	・ ・ ・ ・	1 1
☆	中高生夏の巡礼		・ ・ ・ ・	1 5
☆	七五三・洗礼		・ ・ ・ ・	1 7
☆	祈念祭		・ ・ ・ ・	1 8
☆	茶話会	AM 家庭集会 A 地区	・ ・ ・ ・	1 9
☆	クリスマスの思い出	AT	・ ・ ・ ・	2 0
☆	主は水辺に立った	MT	・ ・ ・ ・	2 1
☆	図書コーナーより	TM	・ ・ ・ ・	2 2
☆	教会日誌		・ ・ ・	2 2
☆	信徒動静		・ ・ ・	2 3
☆	後記		・ ・ ・ ・	2 3

題 字 : 山際 純子
表 紙 画 : 弘世 和久

《待降節黙想会》



指導司祭・昌川信雄神父（クラレチアン会）

待降節第 2 主日の 12 月 5 日（日）、クラレチアン会の昌川信雄神父様をお迎えして、黙想会が行われた。子供たちが大勢ミサに来ている事を喜んでくださり、ミサのお説教から講話は始まった。
テーマ：「私が私のままでいることがゆるされる」

価値観について

近頃、若者の教会離れ・神離れの現象があるといわれる。そんな中で誰もが心を寄せる人たちがいる。

- ① マザー・テレサ
- ② フランス・テゼの Br. ロジェ
- ③ カナダの知的障害者のためのラルシュ共同体の司祭ジャン・バニエの 3 人である。

彼ら 3 人の共通項は、全ての概念の貧しさとつながっていること。

深い祈りによってその活動が支えられていること。

家族・共同体の意識を持っていること、である。

物質的豊かさの溢れるこの世の中（光の部分）で、対極にある貧しさの闇に閉ざされた時代を心で生きた人達である。

神は全てのものを創られ、それを良しとされた。（創世記）これが神の価値観。

金は金で良く、銀は銀でよく、銅は銅でよい。頭の良い・悪い、金持ちと貧しい人、若者と老人、健康な者と病める者。その価値観を人間は好みによって決めている。それぞれが対極にあるものの意味を考えると、その存在全てに意味があり、価値があり、それぞれが幸せに到達するための必要な道程として備えられている。福音体験とはそういうこと。私たちにその時、その意味が分からなくても、神には分かっていることを神秘という。人間は神の領域を侵してはならない。

[目次](#)

タラントン

神と出会うということは、人と人との関係から抜け出して、神のもとへ辿りつくということ。私たちは一人ひとりが幸せになるために、神から預かった財産（タラントン）がある。これは全て等しく良い価値観をもっている。

人間に自由が与えられている以上、それを使って、自分が選んだことの結果について責任を持つことを、神は要求される。それが召命を生きるということであり、その最も顕著な例が洗者ヨハネであり、イエス・キリストなのである。司祭の道もその通りで、自分は幸せと思っている。

講話

母のこと

この 10 数年間、私は現在 98 才になる母の介護をしている。家族の一人として、修道者である自分にも許されている介護の生活を通して、今初めて母の有り難さに気がついている。韓国人 1 世である母は 20 才で来日、父は 45 才で亡くなり、8 人の子育てに専念した母は、岐阜県・多治見で伝道師に出会い、カトリックも儒教と同じく先祖を大切にする宗教だからと、素朴な心で入信した。ロザリオが母の全ての、大切に祈りだった。

もう何も出来なくて赤ん坊のようになった母は、「ウルメ」（私のお母ちゃん）と呼び続ける。それで気付いたのは、命が最後に必要とするのは親なのだと。

「親は生れてくる子供のために存在する。夫婦のために子供が生まれてくると考えると、子供を所有物視し、選別してしまう」

母から教わったこと

- ① 小3の頃、弟がけんかして相手にけがをさせて帰ってきたとき、母は子供たちを集めて、「これからけんかして外から帰ってくるときは、必ず泣いて帰ってきなさい。その晩その子は、枕を高くして足をまっすぐにのばして寝られる」。弱い立場を選びなさい。そして心の平安を選びなさい。

これはイエスの生き方と同じ。

- ② 仕事は今やりなさい。罪は明日にのばしなさい。

私の言葉に置き換えると、やるべきことは、今やりなさい。自分の欲望は後回しにしない。

ある修道会の人が上長から訓練を受ける時、「今やっていることだけに、集中しなさい」と、言われた。

私は今、レジオ・マリエの指導司祭をしているが、ロザリオ 1 環を他のことを考えずに心から集中して祈ることは難しい。そんな時、私はこの現実ありのままの姿から出発する。

なんでもお出来になる神が、そして私を幸せにするために創られた神が、この現在の自分の泥まみれの姿を許しておられるのは、これをくぐりぬけることが幸せに到達するためには必要なことだと、思われているからだと信じている。

「マリアさま。この祈りをあなたの功德を通して、私の足りないところを
イエスさまがお受けとりくださいますように」

私にとってマリアさまは全て。弱い自分を受け入れ、今のありのままの現実を認めてマリアさまの功德を通して助けていただく。

心で生きる

「この現実を感謝します。この現実の故にあなたを賛美します」

私の大切にしている祈りであり、みなさんにもお勧めしている。

実際にこの祈りによって、「心の平安を得られた」と言われた方が何人もおられる。「衣食足りて礼節を知る」などという言葉は今や死語と化している。

機能性、合理性、生産性ばかりを重視し、経済至上主義の時代は日本を破滅へと導き、私たちはその結果の責任を取らなければならない。神が終末の災いをもたらすなら、それを受けざるを得ない。

今こそ神に向かう心を取り戻し、回心しなければならない。神を取り戻すために、これまで私たちが捨ててしまった貧しさと祈りによって真人間になるとは、

- ① どんな貧しさをもちとわない。
- ② 自分サイドではなく、相手サイドにたって、人を大切にする。
そうすれば
- ③ 誰とでも平和を築いていける生き方が出来る。

人間の価値観だけがのさばり、欲望に応える者だけが生き延び、人は心を失った。この価値観だけで生きていくと、ついには神不在の世界におちいり、魂は1秒たりとも生きていけなくなる。

このことに気付いたのがヘンリー・ナウエンである。

ハーバード大で神学を教える著名な司祭であった彼は、ある日夢で「神不在」の体験をする。神の平安ではなく、地獄の苦しみを味わった彼はその時初めて心底から「私はこれからどのように生きたら良いのでしょうか」と、祈った。その時教えられのが、ジャン・バニエの「知的障害者のためのラルシュ共同体」で働くことであり、8年間のそこでの生活が挫折した彼を救った。

神不在の体験はある意味、恵みであり、霊的成長のために必要なことでもある。「わが神、わが神、何故私をお見捨てになるのですか」と問うたイエスキリストの言葉を実感することになる。救いは神からしか得られない。

マリアさま

私は自分に足りない霊性をマリアの霊性につながり、その助けをかり、信じることで得ることが出来た。

レジオ・マリエはこのマリアの霊性をしっかりと持っている。マリアを母として必要としたのはイエス自身であり、後の世の人々にも母マリアを大切にしたいと願った。全ての栄養素がいっぱいのマリアさま。これだけ食べていけば、イエスの一番喜ぶ道を踏破することも出来る。レジオ・マリエを大切にしたい。

マリアさま大好きな司祭です。

(編集部)



神さまが置かれたところで 咲きなさい

置かれたところで 咲きなさい

仕方がないと諦めるのではなく 咲くのです

咲くということは 自分が幸せになり

周囲の人を 幸せにすることです

咲くということは 私は幸せなんだということを

周囲に示して生きることなのです

ヘンリー ナウエン

渡邊 和子訳

《恵老（敬老）の日》

9月19日（日）恵老のお祝いの祝福がミサ中にありました。恵老の日はお年寄りだけではなく、教会全員のお祝いの日という気持ちを込めてミサ後お祝いの会が行われました。今年はASさんのピアノとASさんの友人のYSさんのヴァイオリンの演奏でお祝いの心を表しました。中高生たちも演奏をバックに歌いました。後、中高生・教会学校の聖歌、MWくんの巧みな司会の中高生たちのゲーム。レベルアップのMさんお馴染みの南京玉簾、お仲間と共に披露して下さいました。Mさん指導のもとに子どもたちも皿回しに挑戦。皆とても上手でした。

いのちの与え主である神よ、
あなたは今日にいたるまでの日々を私たちに与えて下さいました。
私たちはあなたに賛美と感謝をささげます。
私たちはかつてまだ若かった頃、あなたを忘れ、あなたに背いてあや
まちを犯したことも決して少なくありませんでした。
しかしあなたは私をいつもゆるしてくださり、深いいつくしみを
もって今日の日を迎えるまで私たちを導いて下さいました。
どうか私たちもあなたの愛にならって、他の人々、特に若い人たちが
同じような過ちをおかしても、それをゆるすことができますように。
また私たちが他人をゆるすことによって、あなたの愛をこの地上に
あかしすることができますように。
私たちの主イエス・キリストによって。アーメン。



《 セニョール・デ・ロス・ミラグロス 》

10 月 17 日、セニョール・デ・ロス・ミラグロスのお祝いがありました。住吉教会で「セニョール・デ・ロス・ミラグロス」のミサと聖行列が行われるようになって、今年で 20 年目となりました。



～「セニョール・デ・ロス・ミラグロス」奇蹟の主について～

17 世紀のペルーで、アンゴラ出身の敬虔なキリスト教徒の奴隷がリマのパチャカミリャ地区の粗末な壁にキリストの磔刑図を描きました。数年後の 1655 年の大地震でリマは、壊滅的な被害をうけましたが、このキリストの磔刑図の描かれた壁は残りました。その後、この壁の前で祈る人々に数多くの奇蹟が起こりました。

また、1687 年 10 月に起こった地震の時も、この壁は残り、「セニョール・デ・ロス・ミラグロス」（奇蹟の主）と呼ばれるようになりました。

紫の衣服に白い帯を巻いた信徒によって聖画像をいただいた「みこし」を巡行する聖行列は 10 月 18 日 19 日及び 28 日に行われ、今では、ペルー全土のみならず在外ペルー人が住む世界各国で行われるようになりました。

《 バザー報告 》

KT

昨年バザー後の評議会で、「住吉教会のバザーは10月最後の日曜日」と決まって、今年は10月の第5週目の日曜日、10月31日に開催されました。

9時30分のミサに皆で参加し開店準備を始めた頃から、雨が降り始めました。お客様はもう待って下さっているのです、11時の開店予定時刻を少し早めてお店を開きました。

今年も、ホールは喫茶室です。灰色の雨空でも明るくなるようカーテンを開け、グリーンと赤のテーブルクロスをかけたテーブルで美味しいコーヒー・紅茶と手作りのケーキ、ジュース等を味わって頂きました。ホールには、ロールサンドイッチとお寿司のお店、大阪ピエタのホーリーショップも入りました。

キッチン入り口には赤波江神父様直伝の、もう住吉教会名物となりつつあるタイカレー、ビーフたっぷりのビーフカレー、どちらも時間をかけた手作りのお店です。

その横は皿うどん。今年初登場ですがパリパリ麺に野菜たっぷりの中華あんがとてもよく調和していました。

奥の会議室は白玉のおぜんざい。ふっくらとやわらかい小豆と白玉は、作って下さった方の年季が感じられます。この食堂は、ゆっくりと歓談して頂けるくつろいだ空間になっていました。

運動場は、今年は男性陣の焼き鳥だけとなりました。そのせいか おまけが何本もついて太っ腹な焼き鳥屋さんでした。儲け度外視とは、このことですね。

幼稚園一階はリサイクル、雑貨、手芸のお店です。

リサイクルと雑貨はどちらも沢山の寄贈の品を頂き、盛りだくさんで賑わっていました。手芸のコーナーには5月から手間も時間もかけて作った作品が並びました。色々なデザインのエプロン、手提げ袋、小物入れ、毛糸のセーター・ベスト、パッチワークのティーマット、籐の蓋つきかご、幼稚園園児の通園カバン・ランチョンマットなどなど。

どのお店もお求めやすいお値段にしたため、楽しいお買い物をして頂けたと思います。

雨は一向に止まず、今年は1時間早く2時に閉店宣言をし、ホールに集まりコーヒーとケーキ、子供たちはジュースとケーキでお疲れ様の乾杯をして、しばし楽しい時を過ごし解散となりました。

[目次](#)

あいにくのお天気のためか例年に比べてお客様が少なかったように思います。それでも、星の園幼稚園、卒園生の方々も来場下さり、来年は出会いの広場で幼稚園と教会の交流の輪がもっと広がっていけばと思います。

毎年のことですが 幼稚園の先生方には今年もお世話になりました。
日曜日にもかかわらずご協力頂き感謝しています。

後日、半年間アイディアを出し楽しい手芸の時間を共にした方たちが集まり慰労会を、
また各売り場の店長さんたちと来年に向けての反省会をいたしました。



盛況ですね

かわいい
手芸品！





大阪ピエタの
ホーリー
ショップ

おすし
&
ロールサンドイッチ



子供達も楽しそう



太っ腹な
焼き鳥屋さん！

おまけサービス



真剣なまなざし！
お買い得品、いっぱい



お疲れ様です。
ホッと一息

《中高生会夏の巡礼》

2010年8月6日～9日 長崎

夏休みに住吉教会の中高生は、長崎に巡礼に行きました。
中高生会が作った長崎巡礼の文集より、抜粋した記事を書きます。

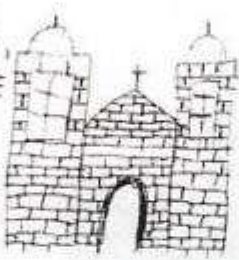
初めての巡礼

中学年2 名前 HT

今回の長崎巡礼は平和について考えさせられる巡礼となりました。
まず最初に如己堂に行きました。永井隆博士については以前教会学校で学んだことがありましたが今回如己堂に初めて行ってみたいという思いがありました。早くがまず衝撃を受けたのは一本鳥居です。
鳥居というのは二本の柱で立っているのが普通だと思
ていましたがこの一本鳥居は原爆によって左半分が壊
れてしまったので近くには飛ばされた方の柱もあり
戦争の生々しさを感じました。他にも平和記念資料
館やコルベ神父様の資料館に行き、8月8日の平和のセ
レモニーに出席したりとたくさんの「平和」に触れることが
できました。
また長崎は教会が本当にきれいで、
みんなとてもきれいなところでミサができるとい
うことができた。大浦天主堂や浦上天主
堂の夜の景色は特に最高でした。
ただこのようなきれいな景色を見ることが
できたのもミサ後のお菓子の販売やカ
ンパにもたくさんの方が協力してくれたから
だと思ひます本当に感謝したいです。
そしてこの4日間の思い出は決して忘れることはないと思ひます。



聖母の騎士修道院・聖堂









如己堂



NO _____
DATE _____

中3 AW Aug. 6から9日

この長崎の巡礼に行くために、毎週日曜日、話し合いを通して今まで計画を立ててきました。たくさんのお祈りでロザリオを唱えたり、原爆受難者慰霊祭に参加したり...と初めての貴重な体験ばかりで楽しい3泊4日でした。

永井隆博士の記念館では、自分より老いた人のために何事も行動し、最後まで神を受け入れた事に衝撃を受けました。

ド・ロ神父記念館では、貧しい人のために人生を尽くして教会まで建てたろうと、私も、貧しい人の生活に少し寄り添った。もっと我慢したり人のために何事もできる人になりたいです。

原爆資料館では、人間らしくない悲しい姿を同年代の人にしました。私たちは本当に幸せだったと改めて気づかされました。今回の巡礼で、たくさんのお祈り、体験ができた。多くのことを学びました。

これから人生の中で、さっと役に立つことだと思います。

ミサ後、ご寄付していただいた皆様、本当に感謝しています。

ありがとうございました。

この巡礼を計画して下さった神父様、リーダー、楽しい巡礼をありがとうございました。

THANKS A LOT!!

《 七五三 》

11 月 14 日に 5 人の子供達が七五三の祝福を受けました。



《洗礼式》

10 月 3 日

おめでとうございます



[目次](#)

《祈念祭》

11月7日（日）50名程のご遺族と共に祈念祭のミサが捧げられました。
身近な亡くなられた方への祈りのカードが奉納され、ミサの後小聖堂に移り祈念堂の前でそれぞれの思いを込めてお焼香を致しました。



[目次](#)

《第 1 回の茶話会に出席しました》

11月11日住吉教会で茶話会が始まった。木曜日午前10時、教会の会議室には男性、女性20名近くが集まった。老人会でもなく、婦人会でもなく、何が始まるのだろう。そんな思いのテーブルの上にはお茶とお菓子が並んでいる。信徒代表のK氏の挨拶を赤波江神父様もにこにこ聞いていらっしゃる。

「ともかく皆さんに集まって頂き、教会への意見をお聞きしたいと思うのです」
K氏の挨拶は続く。「お互い意見交換や近況報告、悩みや質問など、何でも自由に語り合いましょう」一同は深くうなずいている。

神父様が「堅苦しい話ではなく、みなさん自由に発言して下さい」そんなお言葉に「顔は知ってるけど、お名前が」という方もおられる。勿論教会に足を向けたいきさつなど知らない。発言希望者の自己紹介などが始まって、みんなそのお話しに聞き入って話がはずむ。「なるほど、偶然というよりお恵みだったのですね」「思いがけない出来事だったのね」など、初めて伺う個人のヒミツ。

和気あいあいの中に時間はあっという間に過ぎ、第2木曜日、月1回の次回を楽しみにおひらきとなった。

MT



[目次](#)

《 クリスマスの思い出 》

アントニオ ジェラルド AT

1945年私たち一家は神戸の中山手に住んでいましたが、6月5日？の神戸大空襲の時に、アメリカ軍のB29爆撃機による空襲で焼け出され、祖母が住んでいた今の場所に駆け込み、そのままここで暮らすようになりました。やがて終戦になり、やや落ち着きを取り戻した頃、近くに教会があることがわかり教会学校に行くようになりました。これが私の住吉教会とのかかわりのはじめです。

教会にはデラー神父様がおられ、1946年に堅信の秘蹟を授けられました。また、その頃教会学校ではみきおちゃん(和田幹男神父)、みつおちゃん(故深山光男氏)たちといっしょに公教要理を学んだり、遊んだりしていました。ちなみに私はゼラちゃんと呼ばれていました。

2003年9月に神戸バイブルハウスで聖書セミナーが開かれ、和田神父様の「死海写本」の講座を受講した時に55年ぶりに再会しましたが、その時昔の名前で「ゼラちゃん、お茶でもする？」と呼ばれてとても懐かしい思いをしました。

ちょっと脱線しましたが話を元に戻します。終戦直後の聖堂は畳敷きでミサの時私たちは後ろの方で正座して与っていました。ミサはラテン語で捧げられていて子供たちにはさっぱり理解出来ず、途中で時々ひそひそとおしゃべりをして、Hさんから睨まれたりしたことを思い出します。

当時クリスマスのミサは真夜中の12時から捧げられていました。ミサの前に夜8時頃から教会に集まり、幻灯会やコーラスなどいろいろな催しがあり、みんなで楽しいひとときを過ごしていました。

教会学校の子供たちで聖劇をすることになり、私もベルナデッタの弟の役を与えられました。しかし前日から風邪を引き、当日になって声が出なくなったので休んで家で寝ていたら、みつおちゃんが呼びに来て、「代役がないので出てほしい。声が出なくても口を動かしているだけでええからいっしょにやろうよ。」と云われ、急いで身支度をととのえて教会へ行きました。そして私たちの番になって、舞台に出て何とか口を動かしているうちに声が出るようになり、自分でもびっくりしました。

その時はわかりませんでしたが、声が出るようになったのは、あの時一生懸命になってがんばった事を神様がちゃんと見ていて下さり報いて下さったのだなと後になって気がつきました。

毎年待降節に入るとその頃の事を懐かしく思い出します。

[目次](#)

《 主は水辺に立った 》

MT

今日も眠れないまま、「主は水辺に立った」を聴いています。魚崎の海岸に近い家で生まれ育った私は、いつも波の音を聞き、海辺にたたずんでは打ち寄せる大波小波を見ていました。

いま曲がながれ、水辺に立たれたイエスさまが声をかけられたところです。昔の魚崎の海辺には漁に出る小舟があちこちにあり、1 日に何度か網も引いており、その網のあがるころよく見に行ったものです。沢山の鰯がとれていて、漁師さんにもらって帰った事など懐かしく思い出しています。

6 月 29 日は聖ペトロ聖パウロの祭日でした。神父様は、その御ミサの中でのお説教で、ペトロのことを話されました。

イエスさまが「わたしについてきなさい」と声をかけられた時の、ペトロの姿が目に浮かんできました。曲は「主にわたしの心この手と若い力汗のしずくささげよう、」が流れていて、がっちりとした若い聖ペトロの姿を思い浮かべています。

神父様はお説教で、ペトロのなかに人間的な感情を感じる。私たちには、直感と理性が必要とのこと。信仰は心に感じるものを、理性で表現していくもの、キリストが共にいて下さることを表現。信仰は直感、イエスさまはペトロをえらばれた。イエスさまの行いを感じる人ペトロ、心に感じることにある。とメモしています。

マタイによる福音書 4 章. 18~22 の中に、「イエスは、ガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、二人の兄弟、ペトロと呼ばれるシモンとその兄弟、アンデレが、湖で網を打っているのを御覧になった。彼らは漁師だった。イエスは、『わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう。』と言われた。二人はすぐに網を捨てて従った。」とあります。

きょう主とともにゆこう
いのちのみ言葉で
愛と真理をつたえよう

“おお 主よ
わたしを見つけた
あなたが呼ばれたから
水辺に舟を捨てて
み言葉で漁に出よう、



眠れない夜 この夜にも感謝を

《図書コーナーより》

『こころ咲かせて』

佐藤初女 著

サンマーク出版 2000 年発行

数年前、私がまだ洗礼を受けて頂く以前に、実家の母から「これいい本だよ」と送られてきたのが、佐藤初女さんの「こころ咲かせて」です。今でも忙しさと心のゆとりがない時には、読まずともテーブル近くの、目に見える場所に置いておきます。すると「せっかくお弁当作るなら、楽しい気持ちで作ろう」とか「いつもの味噌汁だけど、丁寧に作ろう」と心構えが少しだけ変わります。(私は慌てると味噌汁が辛くなるので、本が見張り役みたいです。)

カトリック信者の佐藤初女さんは、1921 年に青森県で生まれ、83 年に自宅を開放し「弘前イスキア」を開かれた方です。助けを求めて来られた方に食事を提供し、疲れをとってもらふ場として徐々に浸透し、92 年にはさらに岩木山麓に「森のイスキア」を開設されました。本の中には、なぜイスキアを開こうと思われたのか、心と心の出会いを大切に考えながら、食事を準備される初女さんの思いが詳しく書かれています。来られた時には悩みと苦しみで声も出ない、お茶も飲めない方がほっと心をくつろがせ、ポツリポツリと話し始める、そしておむすびをメインに新鮮な旬の野菜を使った煮物やおひたし、その時の旬の魚などを初女さんと一緒にいただくのだそうです。「おいしい！」食べ物の味をその場で共に味わえる、これが心の回復していく第一歩。“食べるものほどストレートに心を伝えるものはありません”と言われる初女さんの言葉に、迷いは感じられません。

他とは比べられないほど美味しい初女さんの「おむすび」。「まずは美味しいごはんを炊くこと。いつもより少しかために炊いて一粒一粒が呼吸できるようにふんわりとにぎる」のだそうです。普段私たちが食材としか見ないごはんは初女さんにとっては「いのち」です。いのちである人間がいのちをいただくという行為。食のもつ本質的な意味を、この慌ただしい現代社会の中で忘れることなく食事作りという行為の中で実践しておられる女性が同じ日本にいるなんて…。「私もちょっとは頑張らねば」思わず姿勢を正したくなります。

「初女さんのお料理」

佐藤初女 著

主婦の友社 2009 年発行

この本はまだ図書コーナーには置いてありませんが、この場を借りてリクエスト致します(笑)。お料理の本というより心の栄養も頂ける本です。

(お喋り下手の私に「よく借りてくださるわね」と図書係の方が優しく声をかけてくださり思わず笑顔がこぼれました。本も人と人をつないでくれます。)

TM

[目次](#)

《 後 記 》

朝鮮半島の緊迫情勢や国内の政治経済の不安など最近のニュースはおそろしくなります。

でもイエス様の御降誕は希望のあかし、真の平和が少しずつでも広がるように、目には見えないけれど偉大な祈りの力を信じて、まごころこめてたくさんお祈りしたいと思います。

(H)

洗礼の時に頂いた白いベールがなぜかこの頃被らなくなりました。テレビで見る長崎の信者さんの白いベールに憧れを抱くようになった私。

みなさまはどう思われますか。

(M)

本号の《図書コーナーより》は、利用していらっしゃる方をお願いいたしました。

「すみよし」第 182 号

発 行 日： 2010. 12. 25

編集責任者： 赤波江 豊神父

編集・発行： 広報 チーム

発 行 所： 神戸市東灘区住吉宮町 2—18—23

カトリック住吉教会

TEL： 078-851-2756

FAX： 078-842-3380

<http://www.sumiyoshi.catholic.ne.jp>

製版・印刷： 信 徒 有 志



[目次](#)